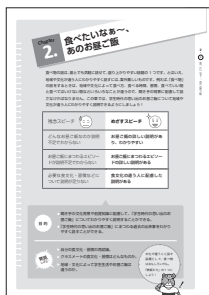


Chapter 2. 食べたいなあ～、あのお昼ご飯

< 地域や文化が違う人にわかりやすく説明するスピーチ >

多様な文化が共存する社会になり、さまざまな文化背景を持つ人と話す機会が増えています。大学でも留学生と日本人の学生と一緒に学べる授業が増えましたが、そのようなクラスで発表するときは、さまざまなことを考慮しなくてははいけません。食べ物の話は、誰とでも気軽に話せて、盛り上がりやすい話題の1つです。とはいえ、地域や文化が違う人にわかりやすく話すのは、意外と難しいものです。この章の目標は、思い出のお昼ご飯について地域や文化が違う人にわかりやすく説明することです。ただ、クラスメートと同じような内容にならないように指導してください。

この章では、2つのスキルに重点をおきます。1つめは自分しか知らない、過去の経験を話すときに大切な「説明力」です。自分の頭の中に見えている過去の状況を、聞き手に理解してもらえるように説明することです。もう1つは、多様な文化背景を持つ聞き手に説明する際に必要な「異文化コミュニケーション能力」を高めていくことです。自分では普通だと思っている食文化や習慣を異文化という観点から再認識し、聞き手にとってどんな説明が必要かを考え、情報の差を埋める練習をします。また、説明をするときの言い回しや、聞き手に失礼のないジェスチャーなどを使って伝えることの大切さも学びます。今回は「お昼ご飯」にしましたが、自分の文化について発表してもらおうのもよいと思います。



学習目的	
★ 自分の食文化・習慣を再認識する。 ★ クラスメートの食文化について学ぶ。 ★ 自分しか知らない情報を聞き手に伝わるように詳しく描写する。 ★ 聞き手の文化背景や前提知識に配慮して、説明することができる。	
時間管理（1回の授業を90分と想定）	
1回目……………スピーチの準備 2回目以降……発表	
発表形式	
1人ずつの発表（各人3分）	
準備するもの	
① テキスト 巻末「発表者・聞き手あるある」の【留学生が気になる日本人の癖】 ② 相互評価シート（発表者の人数×聞き手の人数） →このPDFのp.27	

授業の進め方の例と注意点

● 1 回目 ＜スピーチの準備＞

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
0.	10～15分	アイスブレイキング・アクティビティ：「みんな一緒だね♪」	ヒント集限定！ 
1.	10分	ペアでアクティビティ（アイスブレイキング・アクティビティ） 「食べ物について話してみよう！」	p.32
2.	15～20分	個人でワーク「思い出のお昼ご飯について書いてみよう！」	p.33
3.	15～20分	グループでワーク「思い出のお昼ご飯について質問し合おう！」 （話題の絞り込み）	p.36
4.	10～20分	個人でワーク「スピーチ（3分）の準備を進めよう！」（宿題可）	p.37
5.	（残り時間）	発表についての確認	—

0. アイスブレイキング・アクティビティ：「みんな一緒だね♪」 [10～15分程度]

目的	グループで楽しみながら緊張をほぐし、食べ物のトピックに慣れる。
手順と注意点	用意するもの A4の白紙（人数分） ※なければ、ノートなどに書かせる 手順 (1) 導入として、教師がクラス全体に、次のページの「質問の例」のような質問をする。 (2) アクティビティのルールを説明する。 [ルール] 質問者の質問に、クラス全員が同じ答えを出すことをめざすアクティビティ。 ① 質問者を1人決める。 ② 質問者は1つ質問をする。クラス全員が一致すると思う答えを全員がそれぞれの紙に書く。（なるべく「食べ物」の質問をするように説明する。） ③ 「せーの！」で全員が一斉に答えを言い、答えの紙を見せる。 ④ 答えが一致しなかった場合は、なぜその答えを選んだのか、理由を聞く。 (例) 質問者：お味噌汁の具といえば何？（答えを書かせる時間）…せーの！ 学生A：お豆腐！ 学生B：ネギ！（全員が一斉に答える） 質問者：なぜネギだと思ったのですか？ ⑤ 質問者の役を交代する。

手順と注意点	(3) アクティビティを行う。(※授業時間に合わせて、質問者の数は調整する)
	(4) クラス全体でアクティビティをふり返り、感想などを話す。
	ポイント・注意点 ※ チームビルディングのアクティビティになる。 ※ 留学生がわかるような内容の質問をする。 質問の例 ・ おにぎりの具といえば何？ ・ 寿司のネタといえば何？ ・ サンドイッチの具といえば何？ ・ ラーメンといえば何味？ ・ アイスcreamのフレーバーといえば何？ ・ 目玉焼きに何をかける？ ・ 食事中に何を飲む？ ・ コンビニでよく売れているお菓子は？ ・ おでんにつけるのは何？ ・ おにぎりの形は何？ ・ みんなの冷蔵庫に必ず入っている食べ物は何？ ・ お弁当のおかず（ごはんは含まない）といえば何？ ・ 辛い食べ物といえば何？ ・ 夏に飲む物といえば何？ ・ 冬の食べ物といえば何？ ・ 子どもが好きなフルーツといえば何？

1. ペアでアクティビティ（アイスブレイキング・アクティビティ）：食べ物について話してみよう！ [10分程度]

ワークの目的

食べ物について質問し、食文化や習慣の違いに気づく。

手順

(1) ペアをつかって、隣どうしに座る。

- ※ クラス全員と話すようにするため、まだペアになったことがない人どうしを組ませるようにする。
- ※ 出身国・出身地域などを分けるようにする。

(2) 食べ物についての質問をペアでする。

- ※ 教師はテキストに記載してある質問以外の例を出す。

質問の例

- ・ あなたの文化／家族で、よく食べる野菜は何ですか？

テキスト p.32



- ・（留学生用）日本で売っていない食材・調味料は何ですか？
- ・毎日でも食べたい物がありますか？
- ・ダイエットに最適な食べ物は何かと思いますか？
- ・子どもの頃の大好きだったお菓子は何かですか？
- ・あなたの文化／家族では、食事のときにはしてはいけないマナーがありますか？
どんなことですか？
- ・食事は1日に何回しますか？ 何時に食べますか？ どこで食べますか？
誰と食べますか？
- ・作れる料理は何ですか？
- ・どんな料理を作れるようになりたいですか？

ポイント・注意点

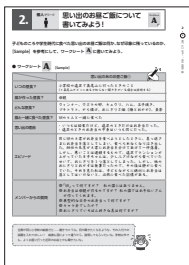
※ もし、質問が出ないようであれば、「ペチャクチャ質問集」(⇒**テキスト**)の付録 1.)に記載されている「食べ物編」の質問を参考にする。

2. 個人でワーク：思い出のお昼ご飯について書いてみよう！ [15～20分]

ワークの目的

スピーチの話題探しの準備。

テキスト pp.33-35



手順

思い出に残っているお昼ご飯は何か、なぜ印象に残っているのか例を参考にして、【ワークシートA】の「思い出のあのお昼ご飯①／②」を書くように指示する。

ポイント・注意点

- ※ 話し手には、聞き手と異なる食文化や習慣なども説明するように指示する。
- ※ アイデアが出てこない学生には、いくつか例を示す。
- ※ 内容が同じにならないように、なるべく異なるお昼ご飯について発表するように指示する。

3. グループでワーク：思い出のお昼ご飯について質問し合おう！（話題の絞り込み） [15～20分]

ワークの目的

グループで話すことを通し、聞き手の反応をもとに、どの話題にするか決める。

手順

テキストの手順（①～④）に沿ってワークを進める。

- ① メンバー全員の【ワークシートA】をチェックするように指示する。メンバーは、疑問に思ったことをワークシートの質問欄に書き、次の人に渡す。
- ② ワークシートが戻ってきたら、メンバーが書いてくれた質問を確認する。
- ③ 自分がいちばん話しやすく、みんなが興味を持ってくれそうな話題を1つ選ばせる。質問欄を参考にしながら、1人3分程度、その話題について説明する。メンバーはさらに、気になったことを時間があるかぎり質問する。

テキスト p.36



- ④ 話し終わったら、メンバーから聞かれた質問をメモする。

ポイント・注意点

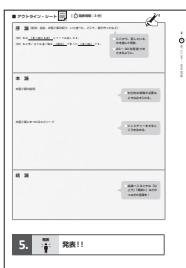
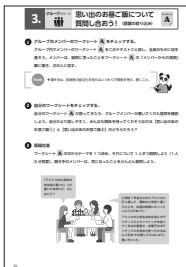
- ※ 時間があるかぎり、聞き手はわからないところを次々に質問をし、話を引き出すように指示する。
- ※ 教師がタイムキーパーをする。
- ※ 聞き手にわかりやすい説明が入っているか、確認する。
(例) 日本国内でも地域によってお雑煮の具や味が違うことを説明する。
外国との違いだけが異文化ではないことを補足説明する。

4. 個人でワーク：スピーチ（3分）の準備を進めよう！ [10～20分]

ワークの目的

聞き手が必要としている情報や、聞きたいと感じる情報と、自分が知ってほしいと思う情報を整理しながら準備を行う。

テキスト pp.37-39



手順

テキストの手順（①～④）に沿ってワークを進める。

- ① 【ワークシート A】で自分のリストを再確認し、どのお昼ご飯の話にするか決める。グループワークの質疑応答で、メンバーの反応がよかったものを参考にするとよい。
- ② **テキスト** p.39【アウトラインシート】を参考にアウトラインを書く。
- ③ ジェスチャーや情報量を考えながら、再度スピーチを構成させる。
 - ・ 聞き手に必要な説明が入っているか、熟考するように促したい。例えば、「日本の給食」について留学生にわかるように説明を加える、など。
 - ・ 必要な情報と不要な情報を取捨選択する。
- ④ 次回までに宿題として、声に出して、自分が納得するまで練習するように指示する。

ポイント・注意点

- ※ もし、どうしてもテーマを変更したい場合は、変更可能だが、【ワークシート A】の作業をやってからスピーチをするように指導する。
- ※ 話す内容を一度全部書きたがる学習者もいるが、発表のときにそれを読んではいけないことを指示する。
- ※ 次の回までに練習してくることを指示。特に今回のスピーチでは
 - ① 海外、また日本国内でも、さまざまな食文化・宗教・習慣・文化の違いがあることを学習者に気づかせる。(例：関西と関東の食文化の違いなど)
 - ② 聴衆分析をして、発表の中で違いをどのように説明をしたらよいかを意識させる。
- ※ 聞き手にとって失礼のないジェスチャー、わかりやすい言葉遣いや、説明をすることが大切と伝える。

オプション

- * オプションとして発表するお昼ご飯の絵や写真を用意してくる。(宿題にしてもよい)

● 宿題

	所要時間の目安	宿題	テキスト
1.	45 分	アウトラインを完成させる。	p.39
2.	15 分	リハーサルを行う。	—

● 2 回目 ＜発表＞

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
1.	10 ～ 15 分	発表前の確認事項	ヒント集限定！ 
(2.)		(個人作業「リハーサル」)	ヒント集限定！ 
3.	70 分	個人発表と相互評価	ヒント集限定！ 
4.	5 分	宿題の確認	ヒント集限定！ 

1. 発表前の確認事項 [10 ～ 15 分]

目的

発表者と聞き手双方の心構えをつくる。

用意するもの

相互評価シート
[→ PDF p.27]
(発表者の人数×聞き手の人数)

タイマー

残り時間を伝えるカード

手順

(1) 発表のルールを説明する。

- ・ 絵や写真を見せながら発表する場合は、目線に注意する。
- ・ アウトラインを確認してもよいが、原稿は読まないこと。
- ・ 制限時間を確認する。制限時間より早く終わってしまった場合、制限時間を越えてしまった場合のルールを事前に決めておく。

(2) 相互評価についての指導。

- ・ 今回の学習目的を確認する。
- ・ 相互評価シートの空欄は、担当教師の必要に応じて評価項目を追加する。
- ・ 聞き手は発表中、話し手のほうに体を向けてしっかり聴くように指導する。スピーチが終わってから相互評価シートを記入させる。
- ・ 大切なフィードバックなので、発表をよく聞いて記入する。良い点だけでなく、気になったこともしっかり書いてあげることを確認する。
- ・ 誹謗中傷のような評価は書かないよう注意する。あくまでもどうしたら良いスピーチになるか、具体的に書くよう指導する。
- ・ 自由記入欄は、単語ではなく、文・文章で書くように指導する。
- ・ 内容に関する素朴な質問も記入してよい。
- ・ 相互評価シートは発表後に回収し、授業の最後に各発表者に渡す。回収は、ス

スピーチを終えた直後の学生が、自分の 1 つ前に発表した学生の相互評価シートを集めるようにすると時間が有効に使える。(発表者はスピーチ後、自分の評価が記入されている間はすることがないため。) 一番目に発表した学生には、最後の学生の相互評価シートを集めることも伝える。

(3) 発表順を決める。

- ・発表順に、発表者名をホワイトボードなどに記入させるとよい。

(4) タイマー係、撮影係を決める。

- ・発表が 2 週にわたる場合、発表しない学生からタイマー係や撮影係を決める。

ポイント・注意点

- ※ 発表者のスマートフォンやデジタルカメラなどのデバイスで動画撮影を行う。教師が撮影してもよいし、学生に撮影係を担当してもらってもよい。
- ※ タイマー係には、「あと 1 分」「あと 30 秒」などと大き目に書いたパネルを持たせ、時間になったら話し手に見えるよう掲げる。または「チン」と鳴る道具を使って時間を知らせるなど指導。
- ※ 相互評価シートを回収後すぐに本人に渡すと、読むことに集中してしまい、次の発表者のスピーチを聞かないことがある。それを避けるため、回収後はいったん教師が預かり、全員のスピーチが終わってから手渡すとよい。その場合、回収後は教師に渡すように指示すること。
- ※ 基本的には、匿名で評価シートを記入させるが、誹謗中傷の防止策として評価者の名前を記入させてもよい。

(2. リハーサル [10 ～ 20 分])

時間があれば、リハーサルを行う。Chapter1 (PDF の p.16) 参照。

3. 個人発表と相互評価 [70 分]

目的

発表と評価の実施。

手順

- (1) 1 人ずつ前に出て、発表を行わせる。
- (2) 個人の発表終了ごとに、聞き手に相互評価シートを記入させる。その間に、教師は発表者に口頭でフィードバックを行う。
- (3) 話し手にはクラスメートから回収した相互評価シートを持ち帰らせる。

ポイント・注意点

- ※ 学生の人数が多い場合、発表は 2 週に分ける。

- ※ 各発表後に（発表者以外の学生が相互評価シートを記入している時間内）教師は発表者に対して個人的にコメントする（他のクラスメートに聞こえないように隅で行うとよい）。もしくは、教師から見た良い点や改善点をクラスで共有する形でもよい。
- ※ 発表直後の学生は、緊張からの解放により教師のフィードバックが耳に入らない場合がある。安静してから行うか、短いコメントに留めておくともよい。
- ※ まず、良かった点、頑張った点などのコメントを先にいくつか伝える。注意点を口頭で伝える場合は、最後に 1 つだけ伝える程度にするとよい。
- ※ 全員の発表が終わったあと、総評をコメントしてもよい。その場合は、良かった点と改善点の両方を伝えるようにする。
- ※ 留学生の場合は、日本語の誤用などについても適宜フィードバックを行う。

4. 宿題の確認 [5 分]

テキスト別冊

手順

- (1) 自己評価シート（**テキスト**の別冊）について説明をする。
- (2) 自己評価シートを記入し、翌週提出させる。
 - ・ 自分の発表体験やクラスメートからの相互評価シートをもとに、自己評価シートを記入する。
 - ・ 自由記入欄には、なるべく具体的な自己分析を記入する。

ポイント・注意点

- ※ 教師は自己評価シートにフィードバックなどを記入し、次回、返却する。
- ※ 自分の発表動画を見て、自己評価シートを書くときの参考にするように指示する。